

和木ぶんか

WAKI Culture

12.1

December 2014

平成26年

No.45



撮影：松本 紀生さん

特集記事

松本 紀生さんインタビュー 写真展&フォトライブ

和木町文化協会功労賞・奨励賞

牧島美智江さん、片山アツヨさん、正木良江さんお礼の言葉

和木町文化祭一展示会&芸能祭 開催

【輝くわきピープル!】藤仲リュウ 作品紹介

「平成26年度 前期行事報告

かおり会、和木絵画クラブ、カラオケ同好会、二階堂和美コンサート、
第4回キッズ芸能祭、「オーロラの大地から」フォトライブ、
「オーロラの大地から」写真展、ふれ愛コンサート、太鼓まつり

これからの行事予定

第62回 二科会写真部展に「つまむ」が入選 佐伯茂樹さん

第2回 和木町絵画美術展覧会作品公募



「オーロラの大地から」

フォトライブ 和木コミュニティセンター

観客数
134人

平成26年9月27日(土)

写真展示 和木美術館

平成26年9月27日(土)～10月13日(月)

のべ800人
来館

写真家 松本紀生さんインタビュー

厚い防寒服で、厳しいアラスカの自然の中に身を置き撮影を続けている姿から、とてもいかつい猛者のような人を勝手にイメージしていましたが、直接お会いしてみるとスリムな体に、柔らかい物腰のごくごく普通の人だったのに驚きました。どこにあの強い信念を秘めておられるのでしょうか。フォトライブでは、想像もつかないほどの過酷な撮影生活を軽妙なトークで紹介してくれて、会場全体がぐんぐん松本ワールドに引き込まれていきました。改めて、写真展・フォトライブを終えた松本さんに、いろいろお聞きしました。

写真家を目指した理由は？

大学生の頃までは将来についての夢も目標もありませんでした。そういう生き方に疑問を感じるようになり、悔いのない人生を送りたい、と思うようになりました。やりたいことを思い切りやろう。そう決めたのはいいのですが、肝心のやりたいことが分かりませんでした。でも分からないまま流されるのはいやだったので、一生懸命探しました。そうするうちに、ある日、書店で『アラスカ』と書かれた本に出会ったのです。その本を通して知った自然写真家という職業に強く惹かれた、というのが理由です。

家族の反対はありませんでしたか？

反対されることはありませんでした。温かく見守ってくれていました。いろいろな心配だったであろうことは想像に難くないです。ですが、それを言葉や態度に出さなかったことにとっても感謝しています。当の本人が不安でいっぱいなのに、それに追い打ちをかけるようなことを言われていれば、さらに不安が増していたことでしょう。

アラスカを選んだ理由は？

書店で見つけた本に描かれていたアラスカが魅力的だったからです。手つかずの大自然が残る北の大地。厳しい環境だからこそ、そこに垣間見える光景や生き物たちの輝きが一層まぶしく見えるのです。

夏のアラスカと冬のアラスカはどちらが好きですか？

それぞれに好きな要素があり、比べられません。夏は動植物の命で溢れています。気候もよく、野営も比較的楽でのんびりとしています。冬は逆に極寒の季節で、キャンプ生活も厳しいです。でもだからこそ得られる充実感はない魅力です。

赤いオーロラはなぜ珍しいのですか？

太陽からの太陽風が地上150km以上の高度で酸素原子と衝突する、というのが赤いオーロラが



現れる前提条件です。この前提条件自体が整うことが稀なので、赤いオーロラはなかなか見られないのです。

オーロラが出ている時間はどのくらいですか？

その時々で様々です。数十分のときもあれば、数時間におよぶこともあります。いつでるか、どれくらいの時間現れるかも分かりません。毎回、違ったオーロラがです。二度と同じものは現れません。

オーロラに魅せられた最大の理由は？

オーロラそのものというよりも、それを追い求める旅自体に惹かれています。オーロラというこの世の物とは思えないほど美しいものを、自分の持てる力すべてを使って追い求める。厳冬の氷河上で2ヶ月間、ひとりでもかまくら生活をしながらひたすらにシャッターチャンス待つ。オーロラの写真という結果に辿り着くためのこの過程の濃密さが、結果を問わず、心の底からの充実感をもたらしてくれるのです。

松本紀生 略歴
Matsumoto Norio

1972年愛媛県松山市生まれ。人生を模索していた大学生の頃、故・星野道夫氏の著書に出会い、写真家を志す。大学を中退し、アラスカ大学に編入。アラスカの自然や人々について学ぶかたわら、独学で撮影技術やキャンパススキルを習得。現在は1年の半分以上をアラスカの原野や無人島、冬は氷河の上のかまくらでひとりで生活しながら、自然の撮影に専念している。

これまでで一番怖かったことは？

氷河上で猛吹雪に見舞われたことです。外に立ってられないほどの強風で、かまくらの中に逃げ込みました。その後さらに風が強くなり、かまくらの壁がどんどん削られていったのです。穴が開いたらおしまいでした。そこから吹き込む粉雪でかまくらの中はあつという間に雪で埋まっていたでしょう。逃げ場のない僕も生き埋めになっていたところ。幸いにもその吹雪は2日間ですんでくれたため、かまくらに穴が開く寸前でなんとか助かりました。

星野さんが熊におそわれたけど、熊は怖くないですか？



熊は基本的に人間を襲うような動物ではないので、怖くはありません。中には例外的におかしな熊もいるため、星野さんのような事故が起きました。怖くはない、というのは、人間が熊に対して正しい態度で接していれば、の話です。熊の表情や行動が発するメッセージを

的確に読み取った上で、こちらも慎重に行動しなければなりません。

ボートでひっくり返ったことはないですか？

まだないですけど、ひっくり返ったときのことを考えると恐ろしいです。海水温が低いため、30分ほどで命が危ないと言われていいます。なのでボートで沖に出るときには必ずラジオで天気予報をチェックします。沖にいる間にも頻繁に予報をきいています。

凍傷とかになりませんか？

凍傷になったことはありません。指先が冷たくなる程度には個人差があるようで、僕は普通に手袋をしていれば大丈夫なようです。手袋もさほど厚い極寒仕様のものではありません。足の指先は日本から持って行った貼るカイロで巻いています。

一度のアラスカ行きで撮ってくる写真の量は？

夏と冬とでまったく違います。夏は動物次第でたくさんシャッターチャンスがあり、連射もしますので、数千枚撮ることもあります。

す。逆に冬はオーロラがまったく出ないこともあり、出たとしても連射ではなく数十秒間シャッターを開けて撮る、といった撮影方法なので、少ない冬は数十枚しか撮れないこともあります。

静寂のアラスカから帰国して、日本は騒々しく感じませんか？

地元・愛媛や和木のような町はのんびりできて好きですが、都会へ行くとその喧噪に嫌気がさすことがあります。それと、多くのテレビ番組の作り物の世界がどうでもいいものに見えてしまいます。

フォトライブではとても楽しいトークでしたが、何か月も喋らずにいて平気ですか？

喋らないのは苦になりませんし、独り言もほとんど発しません。ただ、キャンプ中は毎日、日本にいる奥さんと衛星電話で20分ほど話しています。短い時間ですが、とても大切なひとときです。

一人ぼっちだと寂しくないですか？

寂しいと感じることはほぼありません。好きでやっていることなので、基本的には楽しいです。日

本やアラスカの町で待つてくれている家族や友人達の存在をより近くに感じられますので、1人でも独りだという感覚はないのです。

日本に帰って一番に食べたいと思ったものは？

あまり食にこだわりがないので、特にこれ、というものはありません。アラスカでお世話になっている知人宅で日本食を存分にごちそうしてもらうからかもしれません。

これからの夢は？

原野で長期間、単独でとことんシャッターチャンスを追い求める、という今のスタイルでアラスカを撮り続けたいです。そうやって撮ってきたものをフォトライブを通して多くの皆さんに見ていただく。この活動ももっと広げていきたいです。好きなことを思い切りやれている、この現状に感謝しながら、さらに努力を続けていきます。

松本さん、ありがとうございます。些細な油断や気の緩みが命に係わる世界。どうぞご無事で、これからもアラスカ行が続きますように。そしてまた素晴らしい写真を私たちに紹介して下さることを心から期待しております。

和木町文化協会功労賞・奨励賞

和木町文化功労賞



手話サークル「虹」
牧島 美智江

八・六豪雨災害で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、この度、栄えある「文化功労賞」を頂戴する事となり身の引き締まる思いが致します。サークル仲間や機会を与えて下さった皆様に感謝申し上げます。

手話との出会いは平成四年、和木町役場の坂本啓三氏が開催された全五回の手話講座でした。

手話は「手で話し、目で見る言葉」です。初めて聾者の手話に触れ、新鮮でとても不思議な感触を今でもはつきり覚えています。

講座修了後、サークルを結成、「聞こえない人の架け橋になりたい」と会の名前を「虹」と称し、坂本先生のご指導で楽しい勉強会が始まりました。

その後、平成十一年より先生の後を継ぐ事となり現在に至っております。

三重苦のヘレンケラー女史が「も

し生まれ変われるとしたら耳の障害だけは避けた」と言われた話は有名です。

ろう者は昔から社会のいろいろな場面で不利益を被り、差別されてきました。長い年月を経て二〇一

二年には障害者基本法が改正され「言語に手話を含む」事が明記されました。現在、全国で手話言語法制定を求める意見書が提出される中、昨年十月全国で初めて鳥取県で手話言語条例が成立。ろう者の住み良い環境が進みつつあります。和木町では先月九月議会において可決されたと聞き、二歩前進を嬉しく思います。

私達は、ろう者と共に小学校での手話教室、WAKIコンサート、中学校文化祭、他サークル交流会など活動の和を広げ、二〇二二年和木町で開催された銃剣道式典で手話通訳をさせて頂いた事は、生涯の思い出となりました。

これからも健康に留意し、素晴らしい仲間と共に地域に貢献できるように頑張りたいと思います。

和木町文化協会のご発展と会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

和木町文化功労賞



あぎみの会
片山 アツヨ

この度は和木町文化協会より名誉ある文化功労賞を頂戴いたしましたことを光榮に存じます。

20年近く前、岩国の中村先生からちぎり絵を仲間と一緒に学び、その後設立された「あぎみの会」

では、指導者というより会員のみなさんと一緒にちぎり絵を作成し、和木駅に展示したり、和木あい苑に寄贈してきました。展示会を見に来られた人からは、げまして、今まで続けてこられたことに感謝しています。

ほんとうに、ありがとうございます。

和木町文化奨励賞



書道翠洋会
正木 良江

この度は思いがけなく栄えある「文化奨励賞」を頂戴し身の引き締まる思いでございます。

泉先生にご指導頂き三十年余り。やつと、書の楽しさ、難しさ、奥の深さを感じることが出来るようになってきました。

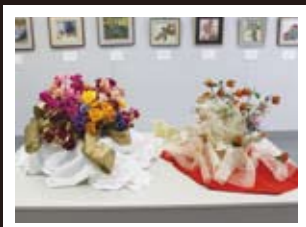
これからも「継続は力なり」の言葉を胸に二層精進してまいりたいと思います。

ありがとうございます。

展示会

2014年 10月16日 木 → 11月16日 日

アートウィング（和木美術館）



緑の風薫る 文化のまち 和木町

和木町 文化祭

芸能祭

2014年 11月 9日 日

和木町文化会館



WAKI PEOPLE 【輝くわきピープル！】



将来が期待される若手イラストレーター

藤中さおりさん (作家名: 藤仲リュウさん)

幼稚園の頃に百科事典の恐竜の挿絵に興味を持った事がきっかけでモンスターやドラゴンなどのファンタジーイラストを描き始めました。地元山口では、毎年夏にシンフォニア岩国にて開催される「いぶき展」に興味で描いた色鉛筆イラストを出品。福岡ではNPO団体主催によるアート交流会や各イベントによるライブペイントに出演したり、母校の専門学校にて学科の特別講師を担当したりと仕事以外の行事でも積極的に活動中。

仕事での目標は、手掛けたゲームで遊んでくれる子供達・大人達に「カッコイイ!」と思って貰える絵を描く事。将来の夢は、趣味の色鉛筆イラストを描きためて個展をする事(笑)。仕事も遊びも、何事も楽しく取り組んで行きたいと思います。



藤仲リュウ 略歴

Fujinaka Ryu

本名 藤中さおり。1986年7月19日 和木町生まれ。
和木幼稚園、和木小学校、和木中学校、山口県立岩国総合高等学校と進学。九州デザイナー学院イラストレーション学科卒業後、4年間の映像制作会社勤務を経てフリーランスに転向。現在は博多に在住し、ゲーム系イラストレーターとしてトレーディングカードやソーシャルゲームの絵の他、RPGのキャラクターデザイン等を手掛ける。

【主な実績／手掛けたタイトル】

(株)スクウェア・エニックス『ロード・オブ・ヴァーミリオンⅢ』
(株)ブシロード『フューチャーカード バディファイト』
(株)ホビージャパン『ラストクロニクル』
(株)CAPCOM『モンスターハンター ロアオブカード』
(株)Applibot『レジェンド・オブ・モンスターズ』etc...



26年度 前期 行事報告

6/1

日

かおり会『民謡の祭典』

和木町総合コミュニティセンター
息のあった三味線の連弾に圧倒されました。

6/15

日

カラオケ同好会発表会

和木町文化会館
魂のこもった迫力の演奏に酔いしれました！

7/27

日

『第4回 キッズ芸能祭』

和木町文化会館
第4回目のキッズ芸能祭。13組の子どもたちが練習の成果をステージ上で発揮！



6/6

6/8

和木絵画クラブ 『第16回絵画作品展』

和木美術館

今年も油絵の力作を多数展示、多くの来場者が作品の前に足を止め、見入っていました。



6/25

水

『二階堂和美コンサート』

和木町文化会館
ジブリ映画「かぐや姫」の主題歌を歌う大竹市出身の歌手、二階堂和美さんのコンサートが開催され、来場者は澄んだ歌声に耳を傾けました。



8.6 岩国和木豪雨災害をうけて、8/30 に予定していた「だいだいの空」が中止になりました。お詫び申し上げます。

9/28

日

『ふれ愛コンサート』

和木町文化会館
和木小学校・中学校吹奏楽部やOB会の共演による、音楽にふれるコンサートが和やかに開催されました。



写真家 松本紀生さん

『オーロラの大地から』

アラスカの大自然の厳しさと素晴らしさに心を奪われました。

9/27

土

フォトライブ 和木町総合 コミュニティセンター



9/27

10/13

写真展 和木美術館



10/12

日

太鼓まつり 和木町文化会館

心に響く和太鼓の世界。今回は特別ゲストに今福座の今福優さんをお迎えしました。



これからの行事予定

12月13日(土)	WAKIコンサート2014	文化会館
1月10日(土)	新春書初め会	和木中学校体育館
1月16(金)～ 1月19(月)	新春書初め会 展示会	美術館
2月8日(日)	新春舞い初め会 (日本舞踊藤間勘三津)	文化会館
3月15(日)～ 3月29(日)	和木町絵画美術展覧会	美術館



入選作品「つまむ」

第62回二科会写真部展(第99回二科展) に和木フォトクラブの佐伯茂樹さんが 入選されました。おめでとうございます。

「第51回二科会山口支部写真展」「第62回全国二科写真部展」の作品が
アートウイング(和木美術館)にて

平成27年1月23日(金)～1月25日(日)まで展示されます。

昨年11月コミセンの登山教室で吉和の奥にある
赤谷山(1181m)に登り頂上で撮影しました。

撮影者:佐伯 茂樹さん(和木フォトクラブ)



第2回 和木町絵画美術展覧会 作品公募 大賞 優秀賞 奨励賞ほか

作品の搬入 日時・場所

2015年 **3月7日(土)**
9:00→18:00

アートウイング(和木美術館)

出品資格

一般(高校生以上)

※直接、和木美術館に搬入搬出できる方に
限ります。(郵送は不可)

出品料

1点につき1,000円(高校生無料)

お問い合わせ先

〒740-0061 山口県玖珂郡和木町和木2丁目15番1号
和木町総合コミュニティセンター内 文化協会事務局
TEL(0827)52-2191 ※8:30～17:15まで FAX(0827)52-5200

第2回 和木町絵画美術展覧会

2015年
3月15日(日)→3月29日(日)
時間:10:00→18:00(最終日は15:00まで)
会場:アートウイング(和木美術館)

▶表彰式/大賞・優秀賞・奨励賞 ほか

◎平成27年3月15日(日)10:00～

◎審査員によるギャラリートーク 10:30～

会場:アートウイング
(和木美術館)

